

異種感覚様相（クロス・モーダル）刺激
を用いたマッチング（対称性）について
川合伸幸（関西学院大・文・心理）

チンパンジーが手で触って知覚したものを、見たものとマッチさせることができるかを調べるための予備的な研究をおこなった。まず最初に、5個体のチンパンジー（ゴン、ブチ、マリ、ベンデーサ、パン）に対して、CRTディスプレイの面前につり下げた物体を引かせる訓練をおこなった。その物体は、ディスプレイの上におかれた電球につながっており、物体をひくことで、電球が点灯・消灯した。実験者が電球を点灯させるという弁別刺激のもとで、それを消灯させるという訓練をおこなったところ、すべてのチンパンジーは、大きさや材質が異なるさまざまな球状の物体をつかんでひき下げるようになった。

次に、物体をひけば、CRT上に写真が呈示され、ひき下げた物体の写真を選択させる課題に移行する予定であったが、主たる被験者のゴンとブチはこれまでに見本合わせ課題や弁別学習さえも訓練されていないナイーブな個体だったので、以下のようなよりかんたんな学習課題から訓練した。まず手で触った物を見たものとマッチさせるためには、視覚刺激同士のマッチングができていなければならない。そこで彼らに視覚刺激の見本合わせ課題を訓練した。その結果、彼ら（32歳）は色の見本合わせ課題の習得が困難で、無誤学習や修正法などの学習を促進させる技法を使ってようやく学習のきざしを示した。この学習の困難さは、位置や刺激への偏向の抑制が困難なことから生じることが反応時間などの分析からわかった。

売立目録に掲載された猿猴図版の類型分類と
分類検索カードの作成
都守淳夫（犬山市・愛知）

猿猴図版の類型分類の施行と分類検索カードを作成するため、本年はつぎの整理をおこなった。

1) 猿猴図版を作成した作家の経歴と没年調査：売立目録図版には、作家約250名が1500余点の主として猿猴図像作品を残しているが、森狙仙（1821没）、狩野探幽（1674没）、狩野常信（1713没）、森寛斎（1894没）、竹内栖鳳（1942没）らたった5名の作品が全体の50%を越えている。と言うことは掲載作品の2点以下の作家数が140名にも及び、これらは地方で活躍するとか、また工芸作家も多くその活動経歴や没年はあまり研究されていない。本調査ではその8割方の経歴と没年を明らかにすることができた。

2) 作家・作品数は鎌倉期より漸増し江戸前期の狩野派の成立により飛躍的に激増、近代に至る。

3) 図版類型分類を目的とした検索カードの作成は、現在調査中の①森狙仙の作品カードと③捉月作品カードから着手した。

4) 狙仙作品の類型は、生態（25区分）／民俗（5区分）／渡来（1区分）の3類31区分の画面構成に従い、これに生態や行動の意味内容を対応させた。画面構成の一例を生態区分表記にみると、場所（地上／岩上／樹上）、頭数（1、2、3、群猿）、体位（座位、立位、懸位、踞位、自由位）等の組合せ記述である。

5) 捉月作品の類型は、捉月猿の場所（岩上／樹上／樹下）、体位（座位／臥伏／懸崖／下垂）、行動（座る／見る／手を出す／背を向ける・・・）の3類21区分に従い、これに「猿猴捉月」の故事を暗喩する経典、説話、俚諺等のテキストの意味内容を対応させた。